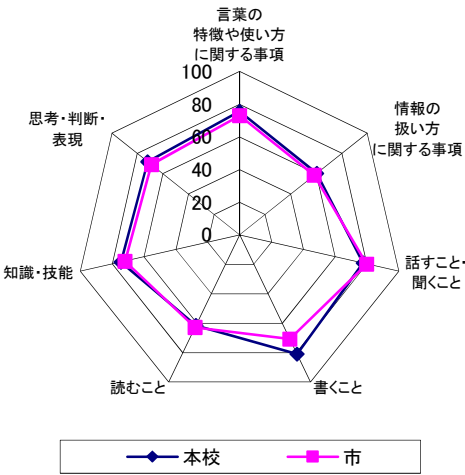


宇都宮市立平石北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.6	73.0	75.5
	情報の扱い方にに関する事項	60.3	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	77.6	79.8	75.9
	書くこと	81.0	70.7	71.7
	読むこと	61.6	62.8	62.5
観点別	知識・技能	74.5	72.0	74.4
	思考・判断・表現	71.9	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

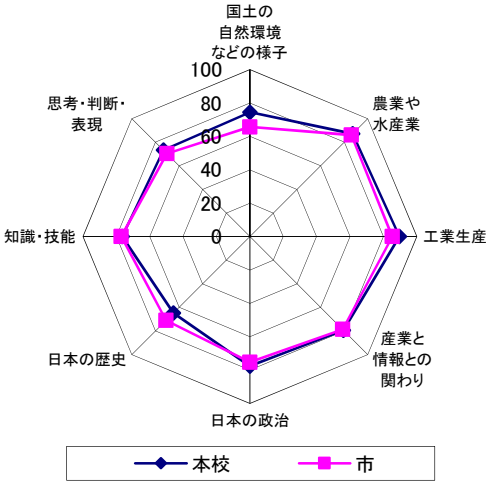
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・正答率は、宇都宮市の平均を2.6ポイント上回っている。 ○三字の熟語の構成についてよく理解している。市の平均を4.7ポイント上回っている。 ●尊敬語の使い方、謙譲語の使い方、ともに理解している児童もいるが、定着を図れていない児童もいる。 ●5学年、6学年配当漢字を正しく読むことができるが、正しく書くことには、個人差が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「尊敬語」と「謙譲語」の違いについて復習し、主語によってどちらを用いるべきであるか理解させるとともに、繰り返し学習することによって定着を図る。 ・漢字を正確に読み書きできるように、朝の学習やミニテスト、家庭学習において既習漢字の習得を図る。
情報の扱い方にに関する事項	・正答率は、宇都宮市の平均を1.8ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章にまとめて書くことができる。	・教材文の文章理解などを通して得た知識を使って、自分自身で課題を解決する活動を取り入れる。 ・関連図書などを意図的に用意し、学習環境を整えるようにする。
話すこと・聞くこと	・正答率は、宇都宮市の平均を2.2ポイント下回っている。 ○計画的に話し合い、考えをまとめるための司会者の工夫を理解している。市の平均を9.5ポイント上回っている。 ●話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉える問題の正答率が低かった。市の平均を13.1ポイント下回っている。	・学年に応じた話し合いの進め方マニュアルを提示し、見通しをもって主体的に話し合いに参加できるようにする。 ・話のテーマに対してペアやグループで話し合う場を継続して設けるとともに、相手の意図を捉えながら自分の意見と比べる活動の機会を増やしていく。
書くこと	・正答率は宇都宮市の平均を10.3ポイント上回っている。 ○指定された長さで文章を書くことが、よくできている。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことが、よくできている。	・課題作文や日記指導などを取り入れ、自分の考えを分かりやすく表現する練習を日常的に行う。 ・資料を活用して、自分の考えの理由や根拠を表現するための言葉を使って書けるようにする。 ・他教科においても、必要な情報を集め、まとめる活動を取り入れる。
読むこと	・正答率は、宇都宮市の平均を1.2ポイント下回っている。 ○物語の内容を読み取る問題では、登場人物の様子や心情について描写を基に捉えることができています。 ●説明文の内容を読み取る問題では、文章全体の構成を捉えたり、叙述を基に文章の内容を捉えたりすることが苦手である。	・日頃から新聞記事や、辞典、図書などを授業の中で活用し、必要な情報を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする学習を意図的に取り入れる。 ・説明的文章では、指示語や接続語の役割に目をつけさせ、文の主旨や内容を理解させるようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	74.5	65.7	67.0
	農業や水産業	87.1	86.1	77.5
	工業生産	89.7	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	79.3	78.6	69.6
	日本の政治	77.6	75.2	65.8
	日本の歴史	64.7	71.1	69.1
観点別	知識・技能	76.5	77.0	72.8
	思考・判断・表現	73.3	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

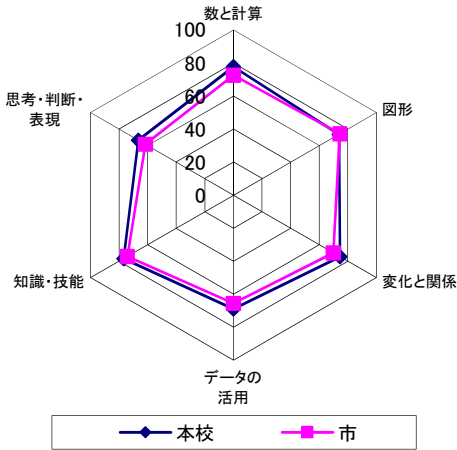
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・正答率は、宇都宮市の平均を8.8ポイント上回っている。 ○日本の周辺の国と領土の端についての理解が高い。 ○日本の気候の様子に着目して、雨温図から都市の位置を考え、判断することができている。	・地球儀や地図、資料集の活用を大切にしたい指導を今後も継続して行う。 ・インターネットや図書資料などから調べたことをノートや新聞等にまとめる活動を通して理解が深まるようにするとともに、資料から考察する時間を確保する。
農業や水産業	・正答率は、宇都宮市とほぼ同じである。 ○食料生産に関する地図の読み取りはとてもよくできている。 ●圃場整備の資料に着目して、米作りの生産効率について考え、表現することことがやや苦手である。	・日本の食料生産について、資料から何が読み取れるかをじっくり考える場面を設け、現状と解決策について話し合うとともに、自分なりの考えがもてるようにする。 ・今後も理科や総合的な学習の時間の学習などの他教科・他領域との関連を大切に学習を展開していく。
工業生産	・正答率は、宇都宮市の平均を4.3ポイント上回っている。 ○工業製品の種類についてとてもよく理解している。 ○環境に配慮して生産された電気自動車のよさについて考え、ガソリン車と比較して表現できている。	・今後も工業生産に関わる基礎用語を丁寧に扱い、基礎的知識の習得に努める。 ・自動車工場見学やオンライン見学などを活用し、実際の物を見て気が付いたことや、資料から読み取って考えたことを話し合う場面を設け、考える力・表現する力が向上するようにする。
産業と情報との関わり	・正答率は、宇都宮市とほぼ同じである。 ○情報の正しい受け取り方については、おおむね理解している。 ○放送や新聞などに着目して、情報産業の役割や責任の大きさについて判断することがやや苦手である。	・今後も自分の身のまわりのメディアやインターネットに注意深く目を向けさせ、情報を正しく選択・活用できる力が身に付くようにするため、情報モラル教育の充実を図る。 ・道徳などの他領域の学習とも関連付けながら、課題を解決する力を高めることができるようにする。
日本の政治	・正答率は、宇都宮市の平均を2.4ポイント上回っている。 ○日本国憲法に着目して、日本国民の権利や義務についての的確に判断できている。 ●国会の働きについては、あまり理解できていない。	・児童にとって政治がより身近なものとして感じられるよう、資料集やデジタル教材を有効活用し、学習内容の理解に役立てる。 ・資料の読み取り等を通して、基礎的事項を習得させ、現状と解決策について話し合うとともに、自分なりの考えがもてるようにする。
日本の歴史	・正答率は、宇都宮市の平均を6.4ポイント下回っている。 ○前方後円墳の分布の資料の読み取りは、よくできている。 ●歴史上の人物の業績に関する理解は、時代や人物によって大きく差がある。特に平清盛に関する理解が低い。	・今後も歴史への興味・関心を高めるため、資料集やデジタル教材等を有効に活用し、学習内容が理解しやすいようにしていく。 ・通史的な学習だけでなく、歴史上の人物に焦点を当てた図書を紹介したり新聞作りを行ったりする学習活動を取り入れ、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.7	72.6	71.6
	図形	73.7	74.4	72.0
	変化と関係	74.5	69.8	62.6
	データの活用	69.0	65.5	59.1
観点別	知識・技能	76.8	74.1	68.9
	思考・判断・表現	66.5	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

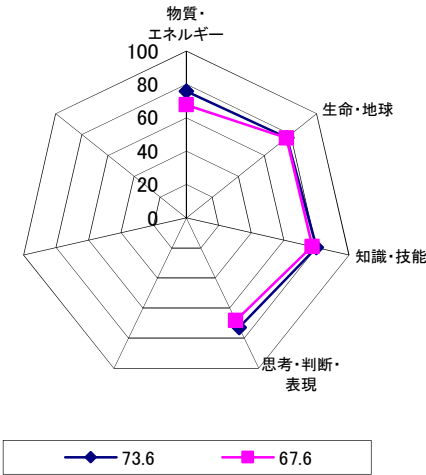
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は、市全体よりも5.1ポイント高い。 ○ほとんどの問題で市の正答率を上回り、特に、分数÷分数(約分あり)の計算問題の正答率は、市の平均正答率より9.2ポイント高い。 ●文章問題にあった分数の式を選ぶ問題と、平行四辺形の底辺と高さの関係を表した式を選ぶ問題の正答率が、市の平均正答率より低い。	・文章から、問題の場面を考えたり、式を導き出したりする学習では、線分図や、数直線などを書きながら取り組むことを徹底し、図と式を関連付けた思考ができるようにする。 ・朝の学習の時間を活用したり、少人数学習や習熟度別学習の時間を利用したりして、今後も個に寄り添った指導を進めていく。
図形	・平均正答率は、市全体よりも0.7ポイント低い。 ○正八角形の作図方法から、内角や外角の大きさを求める問題の正答率は、市の平均正答率より11.7ポイント高い。 ●内角の和や、展開図から、角や辺の長さを求める問題の正答率が市の平均よりも低い。 ●点対称な図形に対応する辺を選ぶ問題や、三角形を作図する問題の正答率が市の平均よりも低い。	・線対称や点対称の性質について、観察や作図等の活動を繰り返し行い、理解できるようにする。 ・作図を指導する際には、十分な時間と、人員を確保し、定規やコンパスの適切な使い方を確実に定着させる。既習事項の復習も繰り返し行い、様々な図形の性質や特徴について、確実な定着を図る。
変化と関係	・平均正答率は、市全体よりも4.7ポイント高い。 ○道のりとかかった時間から、時速を求める式を選ぶ問題の正答率は、市の平均正答率より8.4ポイント高い。 ●速度の異なる2人が同時にゴールするために走る距離を求める問題の正答率は、市の平均正答率を上回っているが、44.8%と低い。	・単位量あたりの大きさについての考え方は概ね理解できているようなので、問題を解く際には、文章をよく読み、題意を十分理解した上で図や式に表す習慣が身に付くよう、繰り返し指導する。 ・割合や、速度が生活の中で用いられている場面を随時提示し、自分たちの身近にあることを認識できるようにする。
データの活用	・平均正答率は、市全体よりも3.5ポイント高い。 ○最頻値についての理解しているかの問題の正答率は、市の平均正答率より12.7ポイント高い。 ○割合の大小と比べる量の大小が必ずしも一致しないことを具体的に説明する問題の正答率は41.1%で、市の平均正答率を上回っているが、低い。 ●折れ線グラフを読み取る問題の正答率は、市の平均正答率を5.4ポイント下回っている。	・場面や用途にあった様々なグラフに慣れ、情報を正しく読み取ることができるよう、多様な問題演習を繰り返し行うことで定着を図っていく。 ・他教科の教材や、実際の資料等も活用し、児童が興味関心をもって問題に取り組めるよう、教材や、指導の方法を工夫する。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	75.9	67.8	64.1
	生命・地球	77.2	76.7	78.3
観点別	知識・技能	80.0	77.4	78.3
	思考・判断・表現	72.9	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・平均正答率は、市全体よりも8.1ポイント高い。 ○方位磁針の性質、ろ過の意味と操作、物の燃え方の問題において、市の平均正答率を20ポイント以上上回っている。 ●電磁石について、正しく理解していない児童が多く、市の平均正答率を下回っている。	○正答率の低かった単元に限らず、すべての単元で、興味、関心をもって、実験や、その考察に取り組めるよう、授業内容や、導入の仕方を工夫する。 ・授業の後、まとめのノート作成や、練習問題を解くことで、言葉の意味や、実験結果の考察などが正しく理解され、学習内容の定着が個別に図れるようにする。
生命・地球	・平均正答率は、市全体よりも0.5ポイント高い。 ○動物のつくりとはたらきの問題においての正答率が高く、とくに食べ物の消化についての問題では、市の平均正答率を16.8ポイント上回っている。 ●天気の変化・植物のつくりとはたらきの問題において、正答率が低く、すべての設問において市の平均正答率を下回っている。	・天気や、植物の観察・実験では、変化がとらえやすいように、長い期間観察できるようにする。また、インターネットや出前授業なども積極的に活用し、学習の理解を深める。 ・単元のまとめの時間を十分に取って、自分の身の回りや、わたしたちの生活と、学習内容とを関連付けながら振り返り、継続して科学的な思考力を高めるような指導を行っていく。